

Letters From Muroran IT No.49

CONTENTS

- 01..... 室蘭工業大学 平成26年度
大学院工学研究科改組について
~未来をひらく創造的な科学技術者の育成を目指して~
- 02..... 授業紹介
- 03..... 研究室紹介
- 04..... TOPICS
- 05..... らんらんプロジェクト
- 06..... 学生活動の紹介

室蘭工業大学 平成26年度 大学院工学研究科改組について

～未来をひらく創造的な科学技術者の育成を目指して～

平成26年4月から、大学院工学研究科は以下のとおりとなります。

1. 大学院工学研究科改組計画の概要

グローバル化の顕著な現代社会の下、多様なニーズに対応して実社会で活躍できる高度技術者・研究者の育成が強く求められており、本学においても指導教員のみならず依存する大学院教育にとどまることなく、以下のような全学的な教育研究体制を構築し、これを着実に実践していきます。

また、博士前期課程と博士後期課程の同時改組により、教員資源を効果的に配置することとし、大学院教育の総合的な強化・充実を実現していきます。

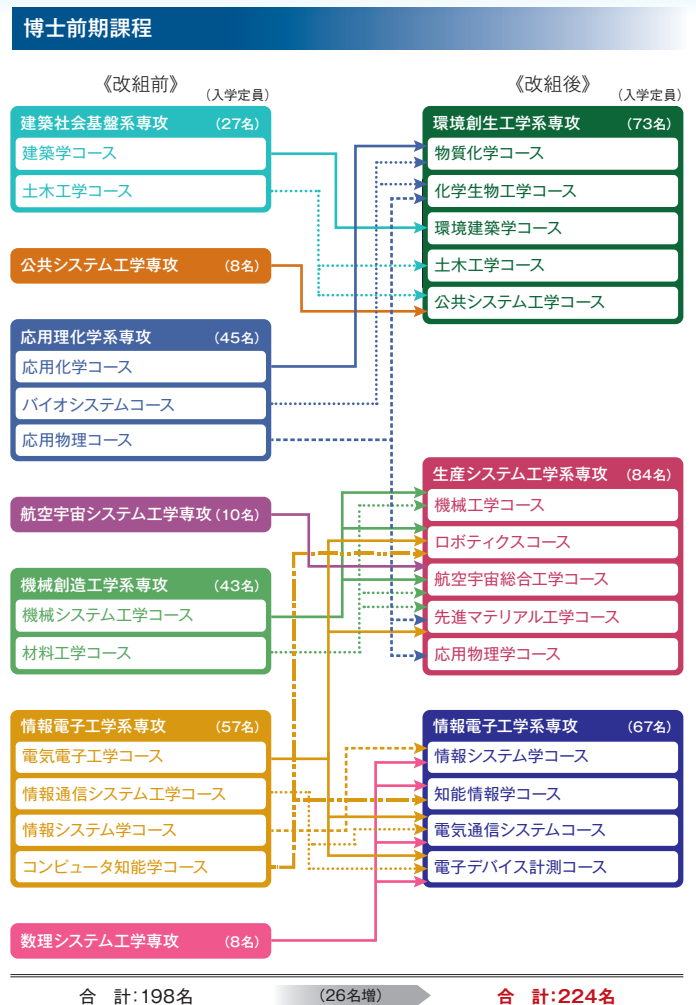
(1) 博士前期課程

- ①従来の7専攻(入学定員198名)を3専攻(入学定員224名)に再編
社会的なニーズの高い分野を中心に、一層、本学の強み・特長を伸張させる教育研究体制に整備
- ②コースワーク及び教育カリキュラムの充実
「主専修・副専修」科目の導入、複数教員による指導体制を確立し、各専門分野のみならず、その周縁の基礎知識修得に配慮
- ③専攻の内容
 - 環境創生工学系専攻
「環境」を中心としてそれを取り巻く工学の諸分野を扱い、環境と調和した持続可能な社会を創生していくための幅広い内容に取り組む。
 - 生産システム工学系専攻
「ものづくり(=生産)」に必要なマテリアル、機械、物理学等の基盤技術から航空宇宙機や次世代ロボット等の高度なシステム技術までの幅広い内容に取り組む。
 - 情報電子工学系専攻
数理的な手法を基礎に、「情報・電子」に関連した種々の技術体系修得に取り組む。

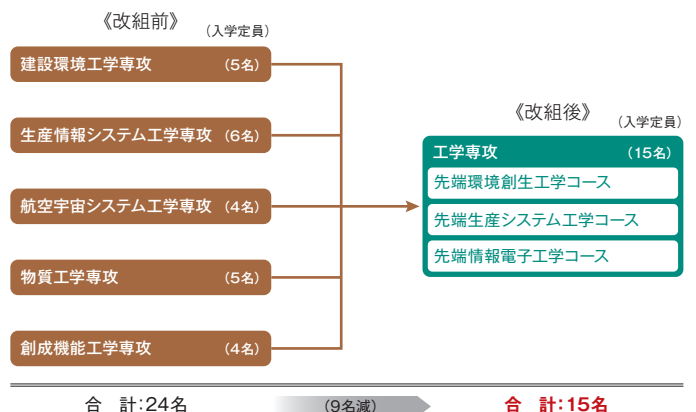
(2) 博士後期課程

- ①従来の5専攻(入学定員24名)を1専攻(入学定員15名)に再編
1専攻内で、「イノベーション科目群」等の充実したコースワーク履修を通して、異なる専門分野の学生同士が切磋琢磨する環境を整備
- ②産学協働の「アドバイザリーボード」の設置
修了生のキャリアパスを視野に入れ、産業界の求める「イノベーション博士人材」育成に対応した教育システムを構築
- ③専攻の内容
 - 工学専攻
工学全般の諸分野を扱い、科学技術の進展による研究分野の変化や幅広い分野に関連する企業からの要望に柔軟に対応できるイノベーション博士人材育成に重点的に取り組む。

2. 移行図



博士後期課程



授 業 紹 介

ひと文化系領域教授 塩谷 亨 (しおのや とおる)

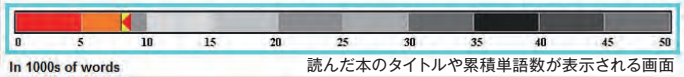
「英語リーディング演習A」及び 「英語リーディング演習B」(英語多読学習プログラム)

英語多読学習プログラムで、ごく自然に読解力のレベルアップにつながる。

英語多読学習プログラムは、平成24年度に導入したばかりですが、英語に苦手意識を持っていた学生も熱心に取り組んでいますので、ある程度の成果が期待できるのではないかと考えています。このプログラムの特徴は、まず平易な英語で書かれた本をできるだけ数多く読むことで、これまで学習してきた単語や文法を見直すこと、そして新しく出会う文章や文脈の中で、単語や文法がどのように使われているか理解を深めることができる点にあります。

具体的に言いますと、90分の授業の中で、数百冊ある本の中から自分で好きな本を選んで読んでもらいます。個人差はありますが、合計2、3冊は読んでいるようです。その後、Moodle(オンライン学習システム)を用いたReview Testで読んだ本の内容に関するテストを受けてもらい、合格するごとに読んだ単語数が加算

Date	Book Title	Level	Status	Words	Total words
14 Feb 2014	Curse of the Mummy	Level 1[RL 4]	Passed	6339	6339
14 Feb 2014	A Special Kind of Neighborhood	1000[RL 5]	Passed	940	7279
14 Feb 2014	The Lost City of Machu Picchu	800[RL 4]	Passed	725	8004
Total Words Read this Term: 8004				Total Words Read All Terms: 15558	



されていく、ゲーム感覚でできるプログラムとなっています。

自分が興味を持った内容の、しかもレベルにあった本を自由に選べるので、英語が身近に感じられ、楽しくなってきます。そうなればしめたもの。英語力を向上させる一番の秘訣は、相当量の英文を読むことです。量が質に転換していきます。

平成26年度入学生も、1年生後期は「英語リーディング演習A」、2年生前期は「英語リーディング演習B」と連続して履修ができ、AからBへと難易度が上がります。Moodle方式によるこの英語多読学習プログラムと、学生と教員との対面式による授業を組み合わせる形で、より一層の英語読解力アップをめざしています。

くらし環境系領域講師 市村 恒士 (いちむら こうじ)

都市環境計画

ランドスケープを活用した地域課題解決に向けた地域づくりのあり方について知る。

この講義では、人間と自然との関わり(：ランドスケープ)に着目しながら、「生活の質」と「環境の質」のバランスを考えた都市づくりの考え方について学びます。講義では、まず、「都市」「環境」とは「何か」の基本的な部分を理解してもらってからスタートし、そこから現在の都市環境における様々な課題と課題解決に向けた都市環境計画のいくつかの視点について理解を深めてもらう内容となっています。

例えば、「環境の質」と関わる低炭素社会、循環型社会、生物多様性の保全に対応した都市・地域づくりについての基本的な考え方や、また、「生活の質」や「環境の質」を計測する都市住民等の「満足度評価」や「ライフサイクルCO₂評価」等の「評価システム」を導入する意義や実際の方法等についての理解を図ります。また、近年、都市環境を「考え創る人」、いわゆる「担い手」が変化してきていること等についても学んでもら



います。

このような講義内容を通して、建築・都市づくりに携わる学生が就職や将来において役に立つ視点が持てると思っています。

本講義内容の考えは、研究室における卒業論文や修士論文、あるいは各種の実践的活動の根拠を担うものとなっています。例えば、一昨年度から開始した、室蘭市から相談のあった「高砂5丁目公園リニュアル事業」への協力・参画は、講義内容の考えと一致する具体的な一例として今後に残る貴重な企画だったと思います。

くらし環境系領域准教授 有村 幹治 (ありむら みきはる)

交通システム計画

情報処理の力も必要とされるなど、学問領域の間口は驚くほど広い。

交通システム計画は土木の分野に属しています。現場があつて理論・セオリー、その間で役立つものを造っていく。それがエンジニアリング、工学ということになり、交通システム計画もそこに位置づけられます。

半年間の授業内容はおよそ以下ようになります。◎情報化社会と交通◎人々の住まい方と交通(土地利用と交通)◎交通システムの要素と関係◎造る技術として、交通調査、交通需要予測◎使う技術として、維持管理計画(施設運用計画)、交通システムの改良と評価◎これからの交通に求められる機能・性能・構造◎地球環境と都市交通システム(国内・海外)◎都市・地域づくりと住民参画。座学の授業になりますが、交通システムの基礎をみっちり学んでもらいます。

授業では、つねに学生に問いかけることを心がけています。あくまでも自分の頭で



考えなさいと指導しています。その際には数学的ツールが必要なのと、データをどう集めてくるか、情報処理能力も要求されますし、調査論が大事にもなります。それら情報をどう加工するかといったことで社会的な問題が捉えられることとなります。

室蘭市地域コミュニティ交通検討会議の座長を務めたり、他のコミュニティ交通関係部門とも連携しているので、授業の中では具体例として紹介します。また、2012年度の一年間、留学していたフランスのリヨンの都市交通整備制度についても、地球環境と都市交通システムの具体例として取り上げて紹介しています。

研究室紹介

熱電変換材料が、
大規模停電などの緊急時の
バックアップ電源になるかも知れない。

強相関電子物性研究室

関根 ちひろ教授



私が所属しているのは情報電子工学系学科です。その情報電子工学がカバーする学問領域は幅広く、昔からの発電、送配電という強電分野の電気工学と、その後に無線通信・信号処理・コンピュータ・半導体素子など電気エネルギーを情報伝達・処理に应用するための電子工学が派生。さらにその後、これら2つの学問分野に情報工学が加わり情報電子工学となりました。そのなかでも、私の研究室では材料の分野の研究を行っています。いわば電気電子技術を支える材料分野です。材料の機能に着目して、材料に特有の現象を利用した熱電変換材料、超伝導材料などの研究開発を行っています。

なかでも最近力を入れて研究しているのが、熱電変換材料であるスキテルタイト化合物です。この化合物は一般に普及するようにはまだ距離がある材料と言えますが、再生可能エネルギーを増やしていこうという国の施策に合致しています。太陽光発電、風力発電、地熱発電などが先行していますが、この熱電変換材料は、変換効率が低いことで研究が停滞していた時期がありましたが、ここに来て新たに注目を浴びてきました。

この熱電変換材料は、2種類の半導体材料を配置して温度差をつけるだけで発電ができるというもの。通常であれば発電に使えないわずかな熱を電気に変えることができます。性能の高いものであればこの材料で発電プラントをつくることも理論上可能です。東日本大震災で日本が直面したことのない大規模な電源喪失や、この室蘭でも一昨年に起こった暴風雪による大規模停電など、緊

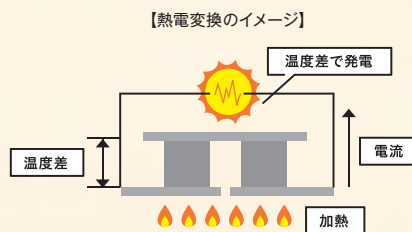
急時に使えるものとして、この熱電変換材料についての問い合わせが増えました。

例えば、太陽電池とのハイブリット化を検討したりすることで、面白い製品が出来上がる予感があります。窓ガラスや外壁材にそれらが使えると、屋内外の多少の温度変化で発電が可能になり、住宅の電気が賅えることとなります。いずれにしても、まだまだ材料研究の段

【川井式2段アンビル型超高压発生装置】



階ですが、モジュールを使って実証実験をやりたいと考えています。発想の転換次第で、製品化する日もそう遠くない気がしています。若い学生の大胆で自由な発想に期待したいです。



第3回ムロランマテリア講演会のようす (平成26年2月14日開催)



子供向けサイエンススクール (平成25年7月27日開催)

平成26年度もムロランマテリア
講演会を開催予定。大学教員、学生、
企業の技術者はもちろん、一般の方の来場も歓迎!

COLUMN

環境調和型社会の実現のためには、資源の循環利用促進、省資源化、有害物質および地球温暖化ガスの排出低減、省エネルギー化、未利用エネルギーの有効利用などの技術革新が必要で。私も所属している環境調和材料工学研究センター(ムロランマテリア)は、こうした人類共通の喫緊の課題に材料工学の視点から対処することを目的に、平成24年度に設置されました。

研究対象は、省エネルギー材料、エネルギー変換材料、資源循環材料、機能性グリーン材料になります。また、研究においては、これらの材料にかかわる新技術の創出、教育においては教育プログラムの推進、社会貢献においては材料、エネルギーをテーマとした「ムロランマテリア講演会」(平成25年度は3回開催)の開催や材料研究の啓蒙活動を行っています。

TOPICS



学長杯争奪ロボットサッカーコンテストを開催

平成26年1月11日(土)、12日(日)の2日間、学生会館多目的ホールにおいて、第20回学長杯争奪ロボットサッカーコンテストを開催しました。このコンテストは、中学生や高校生に対する理工系分野への啓発を図るとともに、地域の活性化に資することを目的に、平成6年度から開催されています。

今年は、室蘭市をはじめ、伊達市及び札幌市、滝川市等からの参加もあり、クラスA(小中学生を含むチームを対象とし、有線操縦ロボットによる競技)に20チーム、クラスB(小学生以上を対象とし、無線操縦ロボットによる競技)に24チーム、クラスC(自立移動ロボットによる競技)に5チームの計49チームが参加しました。

競技は、クラスA及びクラスBについては、予戦と本戦を行いました。予戦はリーグ戦方式で、本戦はトーナメント戦方式で、1個のボールを使って2台のロボットが制限時間内に得点を競う対戦競技を行いました。クラスCについては、あらかじめ定められた位置に置かれた8個のボールを、制限時間内に得点の異なるゴールにシュートして総得点を競いました。

会場には連日多数の観客が訪れ、参加者の白熱した戦いを観戦していました。操縦者の巧みな操作で技ありのシュートが決まるたびに大きな拍手や歓声が上がっていました。

また、大会期間中特別企画として、室蘭市立水元小学校の児童が描いたロボットの絵画展が行われ、会場を一層盛り上げました。



蘭岳セミナーを開催

第11回蘭岳セミナーを2月17日(月)に教育・研究3号館N208講義室で開催し、教職員、学生及び市民約40名が参加しました。

今回のセミナーでは、札幌医科大学医学部麻酔科学講座教授の山蔭道明氏を講師に招き、「手術中の体温管理の重要性と体温モニターの開発」と題して講演がありました。講演では、手術中に全身麻酔をかけた場合、体温調節機能が減少して体温が低下する経過とその影響について知見が紹介された後、様々な体温測定方法や測定器などの説明があり、参加者は興味深く聴き入っていました。

講演後の質疑応答では、会場からの質問に対して懇切丁寧な説明があり、セミナーは盛況のうちに終了しました。



室蘭工大国際セミナー／ようこそ先輩を開催

平成25年11月15日(金)に教育・研究3号館N205講義室において、第42回室蘭工大国際セミナー／ようこそ先輩を開催しました。

今回は本学の土木工学科を昭和52年に卒業した野田順康氏の だ とし や す(西南学院大学法学部教授・元国連職員)を講師としてお招きし、「グローバル化と日本の未来」をテーマに、国連での国際活動などで成し遂げられた経験から、グローバル化の流れのなかで日本において取り組むべき課題などについて講演していただきました。

参加した約120名の教職員、学生、市民は講演者の話に熱心に耳を傾けていました。



蘭岳コンサートを開催

平成25年12月14日(土)に学生会館多目的ホールにおいて第26回蘭岳コンサートを開催し、教職員、学生及び市民約110名が演奏を楽しみました。

今回は、第1部はNISAさん(ボーカル)、西方文哉さん(ドラム)、泉 周一さん(ベース)、清野義史さん(ピアノ)、高橋 基さん(トロンボーン)に「SWAY」、「Winter Wonderland」等を演奏いただきました。

JAZZの演奏や本学の留学生であるNISAさんの歌声で会場は大きな盛り上がりになりました。

第2部は、室蘭工業大学管弦楽団の皆さんに「カノン」、「戦場のメリークリスマス」等、クラシックからポピュラーまで様々な曲を演奏いただき、多くの聴衆が演奏を楽しみました。

らんらんプロジェクト RanRan Project

らんらんプロジェクトとは…

室蘭工業大学では、学生の皆さんが持っている自主性、創造性を思う存分発揮できる機会を提供し、より充実した学生生活を送れるよう、平成13年度に「らんらんプロジェクト」を創設し、以後、毎年プロジェクトを募集し、選ばれた学生の皆さんに活動経費を支援しています。

平成25年度に採択された10件のプロジェクトのうち、「SARD航空写真撮影プロジェクト」、「ビブリオバトル室蘭 in 中島商店会コンソーシアム」をご紹介します。



SARD航空写真撮影プロジェクト

SARD (Students Aerospace Research & Development) は平成23年に発足した学生有志団体で、機械航空創造系学科の1年生から3年生の17名が所属しています。

私たちは「学部1年生から研究室配属」を基本理念に、以下2点を活動目的に掲げています。

- ① 室蘭工業大学の特色である航空宇宙分野の講義や実験で得た専門的な知識や経験を生かし、地域の方をはじめ、誰もが航空宇宙の技術をより身近に感じて、積極的に学ぶことができる環境をつくること。
- ② モデルロケットを用いてロケット開発・運用システムを支える要素や学問に関して総

合的に学ぶことでシステム全体を総括できるシステムエンジニアリング能力を養うこと。

平成25年11月17日(日)には、室蘭岳山麓総合公園(だんパラ公園)において小型ロケットの打ち上げ実験を行いました。このロケットは、設計から製作まですべて自分達で行いました。燃料以外の材料は炭素繊維強化プラスチックなどの市販品を使用しました。実験ではロケットに小型デジタルカメラを搭載し、高度200メートルまで上昇させ、室蘭市内の航空写真を撮影する予定でした。

当日は、3度目の実験で高度100メートルまで到達しましたが、カメラの不具合で写真を撮影することはできませんでした。

平成26年度からは、前回の失敗を踏まえ、

推進部分の変更や、新たな電子機器の搭載など、ロケットの改良を予定しています。さらに、新プロジェクトとして小型衛星を設計するプロジェクトも始動します。



室蘭民報社提供

ビブリオバトル室蘭 in 中島商店会コンソーシアム

このプロジェクトは、ビブリオバトルのイベントを、室蘭市の中島商店会コンソーシアム内の「ふれあいサロンほっとな〜」(地域の方が運営しているコミュニティホール)にて開催することで、学生と地域の交流をより活発にすることを目的としています。

- また、イベント自体の目的は以下の通りです。
- ・ 学生と地域の交流を促進するイベントを開始し、お互いの交流を活性化すること。
- ・ ビブリオバトルを用いて、本を通して様々な人達のコミュニケーションの場を設けることで、学生生活では得られない経験を得ること。
- ・ 学問や日々の生活で得られた知見をイベントという形で地域に還元すること。
- ・ 学生が主体となって企画運営しつつ、同時に参加者や地域の方の意見を取り入れ

たものとする。

ビブリオバトル室蘭は、ビブリオバトルという書評ゲームを使って、学内・学外問わず様々な方との交流を図ることが目的の団体です。

ビブリオバトルとは、本を通してコミュニケーションゲームのことで、発表参加者が読んで面白かった本を5分間で紹介し、参加者全員が一番読みたくなった本(チャンプ本)を投票で決めるものです。自分が日頃読まないジャンルの本を知ることができるという楽しさがあります。

また、ビブリオバトル室蘭では、「ふれあいサロンほっとな〜」での活動のほかに、月に1回、昼休みにピロティでビブリオバトルの定期戦を行っています。参加者は学生が多いのですが、教員もいます。平成25年11月には、本学と学術交流協定を締結しているオーストラリア・

ロイヤルメルボルン工科大学(RMIT)の留学生が本学に研修に訪れた際に、研修プログラムの一環としてビブリオバトルに参加しました。

学生はもちろん、主婦、会社員、図書館員など、様々な年齢や職業の方と関わることが出来ます。今後は、昨年築いた関係を生かして、もっと大きなこと、違うことをしていけたらと考えています。



学生活動の紹介

本学構造力学研究室の学生が ジャパンスチールブリッジコンペティションで優勝

平成25年8月31日(土)、9月1日(日)に名城大学 天白キャンパス(愛知県)にて開催された「ジャパンスチールブリッジコンペティション2013」において、室蘭工業大学チームが初出場ながら総合優勝を果たしました。

これは、大会を通じて参加学生を含む全ての参加者の基本的な工学知識の応用力、問題解決能力を養うことや学生や参加者間の交流を図ること等を目的として開催されているもので、土木工学を専攻する国内19大学・高専が出場し、長さ4メートルの橋梁模型を設計、製作し、架設の時間や载荷試験によるたわみ(変形)量、プレゼンテーション等を競った結果、本学が総合評価で優勝を勝ち取りました。

この大会に参加したのは、構造力学研究室大学院生の成田彩華さん・佐伯侑亮さん・杉本成司さん・4年生の齊藤航平さん・水上陽介さん・佐藤元彦さん・山口成也さん・伊藤悠吾さんの8名で、本学くらし環境系領域小室准教授の指導のもと、平成25年6月上旬から設計を開始しました。

参加学生代表の成田彩華さんは、「製作にあたり、ものづくり基盤センター(cremo)の施設を使用させていただき、cremo 職員の方に多くのご指導をいただきました。また、株式会社榑崎製作所の方々

には溶接のご指導をいただきました。私たちだけでなく、様々な方々のご協力をいただき、このような結果を得ることができました。この場をお借りして、感謝の意を表したいと思います。さらなる飛躍を目指し、研究室の仲間と共に一層の努力を続けていく所存です。」と話していました。



「本田宗一郎杯 Hondaエコマイレージチャレンジ2013 第33回全国大会」において本学学生チームが入賞

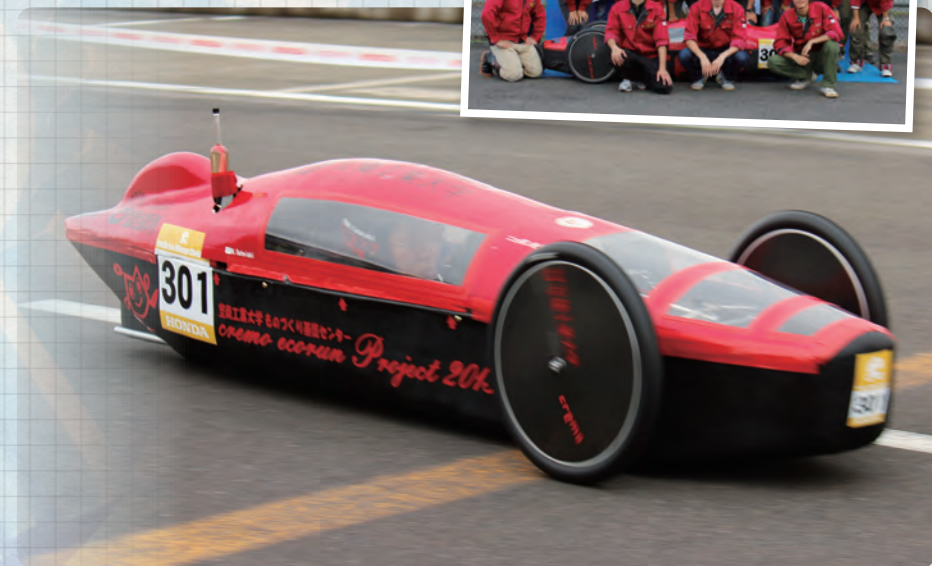
平成25年10月5日(土)、6日(日)にツインリンクもてぎ(栃木県)にて開催された「本田宗一郎杯 Hondaエコマイレージチャレンジ2013第33回全国大会」において、本学のエコランプロジェクトチームが市販車クラスで3位、自作車クラスグループⅢ(大学・短大・高専・専門学校生クラス)で6位に入賞しました。

この大会は、ガソリン1リットル当たりの走行距離を競うもので、本学のエコランプロジェクトチームは市販車クラスで279.403km/L、自作車クラスグループⅢで1358.522km/Lの燃費を記録しました。

プロジェクト代表の増田信凜さん(機械航空創造系学科3年)は、「昨年の反省を踏まえて一年間しっかり活動してきたことがこのような成績につながり、うれしく思います。この結果に満足することなく、次こそはトップとなれるようメンバー全員でより一層努力したいと思います。活動にあたっては、ものづくり基盤センター(センター長・清水一道教授)をはじめ、多くの教職員の方々、室蘭総合自動車学校様、株式会社スズリン様など、たくさんのご支援・ご協力をいただきました。この場をお借りして感謝の意を表したいと思います。」と話

していました。

なお、平成26年2月14日(金)~16日(日)に札幌ドームにおいて開催された「札幌モーターショー2014」において、出場車両を2台出品、また、大会の様子を動画で紹介し、来場した方からも好評を得ました。



公開講座・室工大サイエンススクールについて

室蘭工業大学では、大学の施設を開放して、広く地域の方々を対象に、生涯学習の一環としてさまざまなテーマによる参加・体験型の公開講座や、地域の小・中学生を対象に、日常の授業を離れて「科学技術」や「ものづくり」に興味や関心をもってもらうための体験型プログラムとして室工大サイエンス

クールを実施しています。

実施内容や開催時期については、大学ホームページに掲載していますので、是非、一度ご覧ください。

公開講座HP

http://www.muroran-it.ac.jp/guidance/r_so/extension_lecture.html

室工大サイエンススクールHP

http://www.muroran-it.ac.jp/guidance/r_so/ss_mit.html

公開講座HP



室工大サイエンス
スクールHP



室工大サイエンススクール
「手づくり望遠鏡と光の実験」

蘭岳コンサートのご案内(入場無料)

蘭岳コンサートは、元学長の田頭博昭先生から寄贈を受けたピアノを主に使用して、本学の学生、職員やプロの音楽家まで様々な方が出演するコンサートです。

演奏される音楽のジャンルもクラシックやJAZZ、映画音楽など多彩であり、中には珍しい楽器が使用されることなどもあります。

年間を通して4回ほど開催しているこのコンサートは、出演者や関係者のご協力により無料で鑑賞することができますの

で、ぜひご来場ください。

蘭岳コンサートのお知らせは、1か月ほど前に本学ホームページに掲載します。



第24回蘭岳コンサート
【出演者は山崎かなさん】



第26回蘭岳コンサート
【出演者は留学生のNISAさん他】



第22回蘭岳コンサート【出演者はMIHOKOさん他】

環境への取り組み

本学は平成21年3月23日、「北海道環境マネジメントシステム(HES)」ステップ2の認証を取得し、「地球環境と研究の調和を追求し、学生、教職員、地域住民との協力により、地球環境を守る教育研究活動を推進します」という方針のもと、地球環境の維持・保全・改善に努めています。

HESとは、国際規格であるISO14001を基本として社

団法人北海道商工会議所連合会が中心となり、環境保全活動の取り組みと経営の安定を支援するためにつくられた環境規格です。

大学を訪れる皆様にも本学の環境に対する取り組みへのご理解をお願いいたします。

環境への
取り組みHP



「全学一斉構内クリーン作戦」を定期的の実施し、教職員と学生が協力して構内美化に努めています。

環境への取り組みHP

<http://www.muroran-it.ac.jp/guidance/about/environment.html>

室蘭工業大学 教育・研究振興会のご案内

室蘭工業大学には、「教育・研究振興会」という組織があり、毎年、様々な学生支援活動を行っています。振興会の活動は、教職員、学生の保護者、企業、卒業生、一般の方々からの募金により運営されており、毎年多くの方々のご支援により支えられています。

現在、振興会では、「成績優秀者への奨学金」「困窮学生のための臨時的生活支援」「社会人博士後期課程学生への奨学金」「国際交流活動支援」「博士課程学生への支援」を行っており、より多くの学生を支援するため、今後も事業を継続して行ってまいりますので、ご支援の程よろしく申し上げます。

振興会への募金や支援事業の報告(振興会だより)は、以下のホームページからご覧いただけます。

室蘭工業大学教育・研究振興会HP

<http://www.muroran-it.ac.jp/syomu2/kkshinkou/index.htm>

室蘭工業大学教育・
研究振興会HP



附属図書館のご案内

当館は、室蘭工業大学の学生・教職員のための図書館ですが、学外の一般の方も利用できます。

当日の利用のみを希望される場合は、身分証(免許証、学生証等(国、地方公共団体、学校法人が発行したもの))をご提示ください。また、図書館利用証を作成しますと、当館資料の貸出もできます。利用証作成の手続きについては、当館ホームページをご覧ください。

なお、試験期間につきましては本学学生の利用を優先するため、座席のみのご利用はご遠慮いただいております。

当館の最新情報は、開館日・開館時間、利用方法、図書の検索等はウェブサイトから、新着図書の紹介や各種企画展示・イベント等はFacebookとTwitterから発信しています。

附属図書館HP <http://www.lib.muroran-it.ac.jp/>

附属図書館Facebook <http://www.facebook.com/MuroranIT.lib>

附属図書館Twitter http://twitter.com/MuroranIT_lib/

附属図書館HP



附属図書館
Facebook



附属図書館
Twitter



平成26年3月20日発行 第49号

室蘭工業大学広報室 編集

〒050-8585 室蘭市水元町27-1

E-mail:koho@mmm.muroran-it.ac.jp

TEL.0143-46-5024

【ホームページURL】<http://www.muroran-it.ac.jp>

